Number.11-2022 フェスタサマーミューザ KAWASAKI 2022
発行所：ミューザ川崎シンフォニーホール
〒212-8557　川崎市幸区大宮町1310　TEL044-520-0200
8月5日（金）発行

MUZA KAWASAKI SYMPHONY HALL

ほぼ日刊サマーミューザ 朝刊

Hobo Nikkan Summer Muza

8/4 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
チック・コリア　トリビュート Vol.1　ジャズとスペインを巡る音の饗宴

オーケストラと達人たちのセッションを満喫！！

クラリネットの「レジェンド」リチャード・ストルツマンの出演に快哉を叫び、音楽と演奏家仲間、聴き手への愛に満ちたパフォーマンスに酔いしれた。培ったメカニック、テクニックは、音楽に尽くすためにある。ひたむきに、しかし微笑みとユーモアを忘れずに―そんなアーティスト魂を、先月80歳を祝った名匠がステージで実践した。

ベニー・グッドマンのために書かれたコープランドの粋なクラリネット協奏曲（1950）とストルツマン独特のハイトーンは相愛だ。摩訶不思議な郷愁を誘う創り、夜の静寂（しじま）を映し出すかのような楽想、そしてジャズのテイスト。いずれも素晴らしい。ストルツマンの要望で舞台中央に置かれたハープ、ピアノ、そして東京シティ・フィルの弦も彼の至芸に寄り添った。

昨年召されたチック・コリアの傑作「スペイン」～六重奏とオーケストラのための～も公演の主役を演じた。ピアノ宮本貴奈、サックス小池修、本田雅人、ベース井上陽介、トロンボーン中川英二郎、ドラムス高橋信之介、そして「ゲスト」のマリンバ、ミカ・ストルツマン。これ反則だ。豪華すぎる。さすがジャズにも強いミューザ川崎シンフォニーホールと忖度なしに記しておく。達人たちのセッションを満喫した。拍手し過ぎて手が痛い。

最近いい演奏が続いている東京シティ・フィルが、リムスキー=コルサコフの「スペイン奇想曲」とレスピーギの「ローマの松」で好調ぶりをアピールしたのも嬉しい。コンサートマスター戸澤哲夫。タクトは同フィル首席客演指揮者の藤岡幸夫。

（音楽評論家 奥田佳道）

指揮者、ソリスト、ジャズ６重奏のメンバーで

お客様から

今宵、ミューズが舞い降りた！片時も飽きさせない演目（こんなにてんこ盛りで良いの？）で驚き通しでした。東京シティ・フィルのポテンシャルをマックスに引き出しているマエストロの力量に感服。多彩な表現力、豊かな音色に終始酔いしれた、夢のような時間でした。（50代・ゆうこりん）／プレトークで藤岡先生が言うように、「今シーズンのサマーミューザで最も派手で豪華なプログラム」でした。「ラテン情緒でありながら分厚い響き」との解説に納得。ミューザというホールの響だからこそ選曲されておられたのだなと。コンマスとフルート首席のソロがとびきり華麗で印象的でした。バンダが耳元で鳴り響いたのも驚きの体験でした。（？代・極東のシベリウス）／Jazz、Classic、Pops、Rock…何でも聴く私には至極のプログラム。プレイヤーも超一流！演奏も最高！今日も来てよかった！！（？代）／コープランド、チック・コリア、R.コルサコフ、レスピーギ全部良かったです。ストルツマンの生演奏聴けて嬉しいです。クラリネットを吹奏楽・大学オケでやってました。（？代）／楽しくてわかりやすい藤岡さんの解説、クラリネットのレジェンド、アメリカ、スペイン、イタリアとお腹一杯のコンサートで大満足でした。ごちそう様。（60代・Nob）／フェスタならではの豪華さに酔いしれました（50代・サッチー）

配信控え室から

サマーミューザは配信も充実！
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。

80歳のストルツマンさんの元気さには驚きました！ローマの松もベト７に続き十八番、カメラマンも大好きな曲。あの場所（オルガン横）でバンダが演奏するというのはミューザならでは。大迫力のこの曲で皆さん、ストレス解消してください！（From 多摩地区代表）

上記レビュー公演のアーカイブ配信は 8/6（土）正午から開始♪

【出演】
指揮：藤岡幸夫
クラリネット：リチャード・ストルツマン
マリンバ：ミカ・ストルツマン
ジャズ六重奏：宮本貴奈（ピアノ）、井上陽介（ベース）、高橋信之介（ドラムス）、中川英二郎（トロンボーン）、本田雅人（サックス）、小池修（サックス）
【配信限定コンテンツ】
オープニングインタビュー：リチャード・ストルツマン
休憩時インタビュー：阿部一樹（東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 トランペット副首席奏者）

主催：川崎市、ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）　後援：川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA
映像・音響制作：YouClassics　配信協力：株式会社ぶらあぼホールディングス、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会

Muza's Recommend

休日の午前中、モーツァルトに浸るひととき

小菅優さんからのメッセージ：
この度も東響さんとモーツァルト・マチネに帰ってこれることが楽しみでなりません。今回のプログラムは、ハ長調とイ短調、対照的な調を並べ、弦楽器との対話を中心としました。モーツァルトは、ウィーンで書いた最初の3つの協奏曲の一つですがすがしいハ長調の中にほろ苦い色彩を垣間見せ、オーケストラとピアノ両方の無力で盛沢山な素晴らしい作品。メンデルスゾーンは、彼が若干 12 歳のときに作曲されたにもかかわらず、技巧的な華やかさと同時にのちのメンデルスゾーンらしい素朴な叙情と天国的な美しさに溢れていて、その想像力の豊かな天才ぶりには目を見張るものがあります。東響さんと一緒に作品の奥深くを探り、作品の魅力をより生き生きと伝えられましたら嬉しいです。

小菅優（ピアノ・指揮）

休日午前中の1時間、モーツァルトの音楽を愉しめる「モーツァルト・マチネ」。モーツァルトの生誕の地・ザルツブルクで開催されている「モーツァルト・マチネ」を元に2010年にスタートし、今年9月に第50回を迎えます。

このシリーズでは、モーツァルト作品に12年間向き合ってきた東京交響楽団による、緻密な演奏をお楽しみいただけます。近年では、モーツァルトに別の作曲家の作品を組み合わせた、新たな発見のある企画をお届けしています。

モーツァルトのメロディは聴き馴染みがあり、さらには短めのコンサートであることから、オーケストラデビューや、休日の一コマとしてクラシック音楽を聴きに行く、という体験もおすすめしています。

第50回は、国内外で活躍するピアニスト・小菅優の弾き振りプログラム。小菅さんは今回5度目の登場で、これまでも東京交響楽団と息の合った演奏で好評を得ています。

今回は、小菅さんの意向でモーツァルトのピアノ協奏曲も弦楽版での演奏となります。弦楽器とのアンサンブルに特化した「弦との対話」をテーマに、室内楽の延長としてのピアノとオーケストラの呼応をお楽しみください。（事業企画課か）

モーツァルト・マチネ　第 50 回
9 月 3 日（土）11:00 開演
【出演】ピアノ（弾き振り）：小菅 優　管弦楽：東京交響楽団
【曲目】モーツァルト：ピアノ協奏曲 第 13 番 ハ長調 K.415（弦楽版）
メンデルスゾーン：ピアノと弦楽のための協奏曲 イ短調 MWV O2
【チケット】全席指定￥4,000　U25（小学生～25 歳）￥1,500

パートナーショップのご紹介
エンジョイ！川崎！！
Enjoy Kawasaki

夏らしいタイ料理で気分爽快！

定期的に食べたくなるタイ料理、中でも大好きなパッタイのランチセット（パッタイ、生春巻き、ドリンク、￥950税別）を選びました。タイ料理のランチセットタイ&インド料理のお店ということでドリンクはアイスチャイに。

この日も猛烈な暑さでしたが、もちっとした麺にほどよい辛さと酸味が食欲を刺激、美味しかったです！ お店が入っているモアーズはミューザとは川崎駅を挟んで反対側ですが、駅周辺はブリッジや地下道が整備されているので、暑い日も雨の日もほぼ屋根の下を歩けるのも嬉しいところ。この機会に近隣のパートナーショップをぜひご利用下さい。

最後に、公演が続くとホールのお忘れものも増えてきます。お食事の後も公演の後も、今一度お手荷物をご確認くださいね！

（拾得物担当佐藤み）

川崎モアーズ 7F
アジアンスパイスガーデン　メラ
パートナーショップ特典　飲食代 10%OFF
※現金支払いのみ／コース・飲み放題は対象外　同伴者も利用可

コンサートと一緒に
もうひとつのお楽しみ！
PARTNER SHOP

掲載店一覧はこちら

↑サービス対象店舗はこの POP が目印！
スマホからクーポン券を提示するだけ！
クーポン券は 7/23 ～ 8/11 まで
何度でも利用できます。
公演がない日でももちろん OK ！

フェスタサマーミューザ公式サイト
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/

#サマーミューザ
#夏ジャーン
で検索 & 投稿
お待ちしています！

Twitter : @summer_muza
Facebook : @kawasaki.sym.hall
Instagram : @muzakawasaki

日刊サマーミューザ
Hobo Nikkan Summer Muza

スタッフ日誌

サマーミューザでの舞台写真撮影の裏側を少しお伝えしたいと思います。ミューザ川崎シンフォニーホールの様に大きな劇場で撮る時に大事なことは、公演の時間の流れと構成を頭に入れ、どの曲の時にどこから撮影するかを決めることです。劇場には舞台袖に二か所、二階サイド、三階に正面が撮れる計四か所の撮影ポイントが有ります。それぞれ移動して撮影をするまでに数分かかりますので、場所の選定や移動のタイミングを間違えると残念な思いをします。狙い通りの写真が撮れずに一か所で粘りすぎても記録にならず、バランスよく面白い写真を狙って動き回っています。多い時にはリハーサルから終演まで七千歩近く移動します。一番きついのは一階から三階の撮影場所へ駆け上るときで、機材を持ってのダッシュは一息つかないと撮影ができません。本番中、人知れずミューザの裏側を動き回って撮った写真を楽しんでいただければ幸いです。

（舞台写真家 I）

主催：川崎市、ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）　後援：川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA
映像・音響制作：YouClassics　配信協力：株式会社ぶらあぼホールディングス、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会